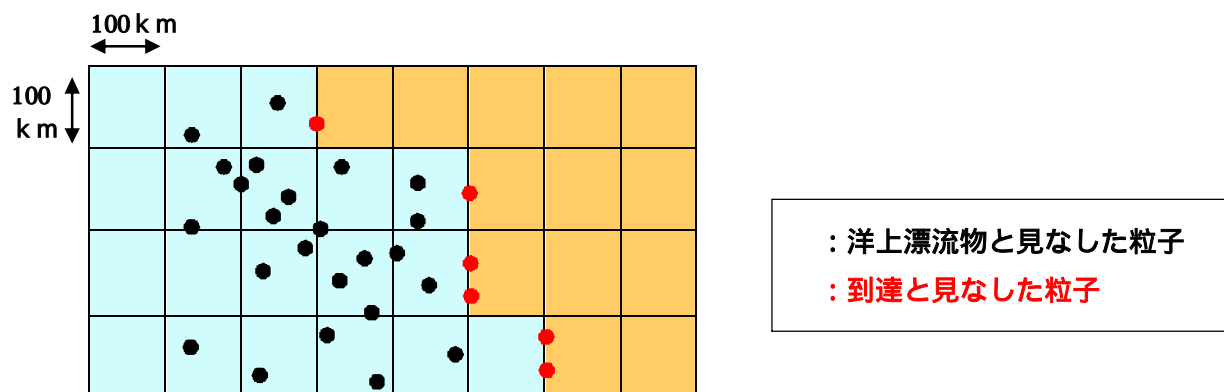


## 2013年2月から2014年10月までの洋上漂流物の北米大陸西海岸域（100km圏内）への累計到達量（試算）



以下の条件にて、当省において独自推計したところ、2013年2月から2014年10月までの北米大陸西海岸域（100km圏内）への推定到達量は、表1のとおりである。

### <条件>

- ・ 海面下漂流物及び標準漂流物のケースで試算。
- ・ 漂流物の全体の量は、当省の総量推計結果より 1,530千tと仮定。
- ・ 北緯35度から北緯55度までの北米大陸西海岸を対象とした。
- ・ シミュレーションの結果から、「北米大陸西海岸の海岸線を越え陸域側に存在する粒子数」と「流出させた総粒子数」の比を算出し、その比を上記総量推計結果と乗算することで、西海岸に到達する漂流物の量を推計。
- ・ 北米大陸西海岸域（100km圏内）に到達する洋上漂流物量の推計値は表1のとおり。

沿岸付近に到達した漂流物は、その時々海岸周辺の風況や海況（沿岸流等）の影響を受けるため、必ずしもその全てが海岸に漂着するとは限らない。しかも、今回のシミュレーション（計算方法）は、100km×100kmの区画（範囲）を1単位とし、その区画の中では気象・海象条件は同一であるとの仮定のもとに計算を行っていることから、狭い範囲で複雑に変化する沿岸付近の気象・海象の効果を正確に反映できていない。このため、下記表1の推計到達量は、北米大陸西岸への漂着量（海岸への）を推計したものではないことに留意する必要がある。

また、今回のシミュレーションでは、時間経過に伴い当然発生する漂流物の劣化・分解・沈降（漂流中の拡散・消失）を見込んでいないことから、実際の到達量はこの推定値よりも小さいことが見込まれる。

表1 平成25年度漂流予測における累計到達量  
 (黒:合計、緑:標準漂流物、青:海面下漂流物)

	2013年2月	2013年6月	2013年10月	2014年2月	2014年6月	2014年10月
漂流物の 到達量(千t)	68+0 (68)	69+0 (69)	71+0 (71)	76+1 (77)	170+50 (220)	343+59 (402)

参考 平成24年度漂流予測における累計到達量(標準漂流物のみ)

	2013年2月	2013年6月	2013年10月
漂流物の 到達量(千t)	2	105	221